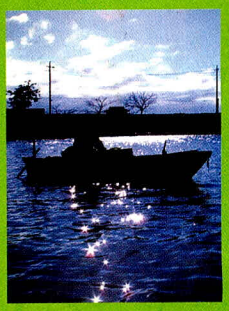
No.459
2004 Mar 3



●今月の表紙●
angler：斉藤輝雄〈中島屋〉
field：横利根川・網外
photo:本誌・根本良一
layout：本誌・田中里史

へら鮒

Monthly fishing magazine herabuna Contents

「へら鮒」の題字/叶 九隻

たくさん釣りたい！　しかも自然の中で…

12 **特集** 編集部厳選 **真冬を楽しむ　よくばり釣り場**
PARTⅡ　野守の池　鯨ケ池　門池　早霧湖　七井戸のセキ　小貝川吉野

20 **特集Ⅱ** CROSS GENERATION TALK いつまでもへら鮒釣りを楽しめるように、俺達が出来ること。 **石井旭舟×杉山達也**

178 **特別企画** 動かないウキに、諦めていませんか…？ **伊藤洋一的超厳寒期突破法**

COLOR（カラー）

2 **釣場一景**　横利根川

FIELD PHOTO REPOAT
8 印旛新川（千葉県）
10 栗山川（千葉県）

29 名手・石井旭舟がいく、へら鮒出会い旅… **へらぶな浪漫街道**
《第十五回》愛知県・筏川寄せ場

35 **スーパーアングラー小池忠教のエサ合わせ大全**
《最終回》強風吹き荒れる友部湯崎湖で必殺バラケが炸裂!

41 **新連載**　生井澤 聡&山中いつ子の**佐原水郷の四季**
《其の3》黒部川（東庄町）を釣る

46,146 **新連載**　原始釣人・稲毛利夫&貧果釣人・モロちゃんの純野釣り探求記!
アタリをちょーだい!!
《Vol.3》寺沼／根肥沼／菖蒲沼／兼山沼／無名の池（埼玉県東松山市）

118 **竹とともに生きる。**
《第7回》「八雲」作者　高田弘行

122 **新連載**　**好きです！　へら鮒釣り！**
《今月の釣り人》釣り具「うしお苑」　渡辺士郎さん

125 杉山達也の**SPLASH BEAT Ⅱ**
《最終回》鬼東沼新春大会。有終の美を飾れるか!?

130 田辺哲男の**「それってどーゆーことよ!?」**
《Vol.15》伊藤さとしの「ダブルレンジ段底」第一弾

134 熱血釣り女・吉川ひとみがいく！**「へらってヤバイわっ!!」**
《第21回》この寒空に…　自己記録66枚を更新せよ!!　川越F.C

138 **列島縦断　旅するカメラ**
《群馬県PARTⅡの③》吉井町付近　「吉井セピア」下の池ほか

141 **西日本川釣り紀行**　北川穂積
《第15回》足守川（岡山県）

144 **頑固一徹！　自分の釣りを貫き通す男**
《今月の釣り人》テーマを絞って釣りを楽しむ　大川原五郎さん

185 岡田 清　**Deep Side Angle**
《Vol.6》【ライン・トライアル】　逆井H.C

190 **FIELD PHOTO REPOAT**
横利根川の岡釣り（千葉・茨城県）

192 **フィッシングレディ**
《今月のレディ》杉山智子さん　谷和原大沼（茨城県）

MONOCHROME（モノクロ）

50 **新連載**　**今月の要チェックフィールド**　編集部

★エリアレポート
52 四ケ所、富久の新堀（福岡県）　河口正伸
54 木場潟（石川県）　山本一朗
55 白川ダム（奈良県）　前田誠志
56 佐屋川温泉前寄せ場（愛知県）　後藤 誠

58 あらいしのぶの**始めてみようよ、へら鮒釣り**
《第11回》釣り場ではどんなものが必要なの…その1

62 **新連載**　トーナメンター**小林恭之**が挑む！　**竿頭までぶっ飛ばせ!!**
《第3回》野田幸手園新春お年玉大会

66 **NHCスピリット**
《Vol.6》'03年NHC全国大会覇者・富安大祐 in 清遊湖

73 江成公隆の**トーナメンター、復活への道。**
《Vol.21》帰ってきた「エンジョイフィッシングレポート」
人生について考えちゃいましたin三島湖（!?）

82 **新連載**　**そんなモジリにダマされて…**　天野正由
《その3》新年明けて尺上と遊ぶ　みのわだ湖～秋川F・C

88 **水辺のプラネタリウム**　吉本亜土
《今月の星空》「流会」

93 **元気が出るへら鮒**　西田美明
《第15回》「晴れ間に感謝」の巻

98 **最狂へラ戦士養成所"鮒の穴"**　高橋謙司
《第十四話》今月の指令:鮒の穴所属、最狂トーナメンター・アモーレ山形と対決せよ!!

102 **野田幸手園新聞**

104 **ワクワク管理釣り場情報**

108 **小売店情報**

149 **新連載**　竹竿&合成竿で未開の釣り場を楽しむ！**オデコバンザイ!?**
《その3》大原漁港近くの日在浦海浜公園の池（千葉県）

156 **野田幸手園 新春お年玉大会**

★へら鮒BOX
161 里ちゃんの新米編集長雑記
162 情報発信基地
164 ボイス
170 **新コラム**　『夢中と書いて夢の中』
171 プレゼント発表
172 釣果予想クイズ
175 広告索引
176 編集後記

STAFF

●Producer
根本良一

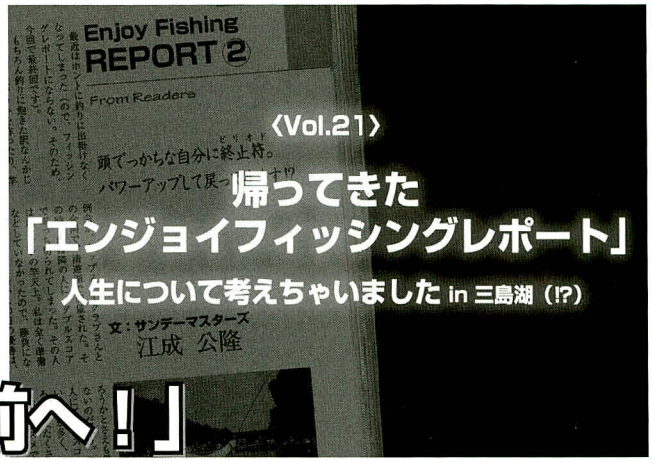
●Editor in chief
田中里史

●Editor
大場勝良
諸冨一秋
根本百合子
伊藤小百合

●Planner
〈オフィス・えふ〉
藤原　肇

この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆の トーナメンター、復活への道。「一歩前へ！」



text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka
業界初、Web連動企画！ 《URL》http://hesar.yokohamatsurumi.net

今回の取材場所は三島湖と決まった（というか、勝手に変更された）。
しかし、文中ではほとんど関係してこない。
ならば「何故」三島なのか。三島である必要が「どこに」あったのか。
暴走をはじめた江成にキッパリと言ってやった。
「全くプライベートな釣りに出す経費などない」と。
すると江成はこうのたまった。「暴走だけに房総ってか!?」
…全く反省の色がない。しかし…「許す♡」。里ちん、この手のオヤジギャグに弱かったりするのだ。
しかし、上がってきた原稿を読んでぶっ飛んだ。「“エンジョイフィッシングレポート”だとぉ!?」
して、その内容とは…
ところでアニキ…。「へら鮒」って釣りの雑誌でしたよね？
by里ちん

「取材？」裏話。

onみそイヴ（12月30日ってことです）

江：里ちんさァ…俺考えたんだけどサ、おさらい編は一旦休止して、大会にどんどん出ていってみようかなって思うんだよ。

里：は？ 何を今さら。それは先月号でも確認した事じゃないですか？ 全然構わないですよ。どんどん玉砕してくださいませ（笑）。

江：ありがと（笑）。でも先月号のニュアンスだと挑戦「も」していくって感じだったじゃない？ そうじゃなくて「を」にしようかな、と。メインにするのね。

里：構わないですけど…でも急にどうしちゃったんですか？ あ、まさか「機は熟した」とでもお感じに（笑）？

江：間違ってもそんなこと思っちゃいないよ。本当にもっと教わりたい事はあるんだよ。でもね、今まで月イチ月イチって強調してきてさ、いかにも一般読者と同じ土俵ですよって感じだったけど、そりゃぁやっぱりウソだな、と。毎月あれだけ凄い先生にレッスンつけてもらえるってのは、やっぱり普通じゃないわけでさ。だから俺の事をね、本当に月イチ釣り師の代表って感じで里ちんが選んでくれたんなら、いいかげん外の世界（?）に出ていかなきゃしゃぁないっしょ！って感じてね。

里：いやぁアニキ、よく分かってらっしゃる！ その通りですよ。ただ一般読者代表って言ってもですよ、やっぱりアニキの大昔（?）の実績を考慮しての人選なんで、気にし過ぎなくてもいいんですけどね。確かに読者の共感を得るためには大事な事なんですけど、誰でもよかったんならそれこそ一般公募しますって。でも編集者としてはそれはコワイですから（笑）。で、江成さんなんですよ。以前は全く「一般的ではなかった」かもしれませんが、現在は「普通」の釣り人だという。そしてその、どこにでもいそうな「普通」の釣り人が、月に一度の釣りという極めて「普通」のペースで楽しんでいく中で、どの位の結果が出せるものなのか？っていうところにこの企画の意義があるような気がするんですね。「夢」を見たいんですよ。

☆豆知識☆ 「エンジョイフィッシングレポート」とは？

エンジョイフィッシングレポートとは、以前、本誌「へら鮒」にあった、いわゆるAPC通信のようなもので、読者投稿という形での釣行記だ。

当然、まだへら鮒社には入っていなかった里や、若き日の江成を始め、関根正義氏、そして、あの棚網 久氏も担当した、隠れた人気コーナー（ほんまかい!?）であった。

江成がエンジョイフィッシングレポートに執筆したのは、「どんまいフィッシング」連載終了後の、1996年3月号から、1997年10月号まで。連載中はちょうど人生の岐路にさしかかっていた頃だったようで、今読み返してみても、その文面からはさまざまな苦悩も窺える。

江成のレポートは20回目で最終回を迎えているが、今月の「トーナメンター、復活～」は、21回目。まさに、「帰ってきたエンジョイフィッシングレポート」。この奇妙な一致に、何か因縁めいたモノを感じずにはいられない…。 by里ちん

江：ありがとう。現在の釣行回数だけで見れば本当に「普通」だとは思う。「へら鮒」をパラパラってめくると、自分のコーナーがあるんだけど、それが自分の最新の（最後の）釣りだったりするんだよな。月刊誌っていうのはメ切りってものがある関係上、正直そんなに新しい情報じゃないわけだよね。それにしてもどういうことよ？みたいな（笑）。他のレギュラー陣じゃ考えられないでしょ、きっと。それがウリとはいえ、ちと悲しい（笑）。

里：そこですよ、問題は。スケジュールどうするんですか？　仕事休めるんですか？

江：…里ちんに合わせるよ。休む！

里：まぁ、あまり無理はしないで下さいよ。一線超えると「一般の釣り人」じゃなくなっちゃうんで（笑）。とくにアニキは極端な人ですからね。

江：わーかってるって！　俺が家のローンや家族からバックレられるタイプに見えるか？　そんな勇気ないよ、俺。

里：じゃ、一発目のトーナメントとして、幸手園の新春大会なんかどうすか？　けっこうメジャーな方々がお見えになりますよ。腕試しにはもってこいかと。ちょうど僕は取材で行きますし。

江：腕試しっていうか俺の場合、運試しとか肝試しって感じだけどナ（笑）。よし、それで決まり！

里：では当日現地にて。良いお年を！

江：里ちんもね。

ドタキャンテレフォン

里：あ、アニキ？　おめでとうございますー！　今年もよろしくお願いします。そういえば幸手なんスけど、ちょっと渋いみたいですねぇ…え？え？今何て？

江：いや、だからぁ、明日は三島に行きたいなぁ…なーんて思っちゃったりなんかして…。

里：三島ァ？　三島で大会でもあるって言うんスか（怒）？

江：だってさぁ…岡田君が行くって言うんだもん。俺も行きてー！って思っちゃったんだもーん。

里：他人のせいにしない！

江：俺、毎年行ってるんだよ～三島！　正月はさぁ…。

里：そんなのアニキのホームページ見て知ってますよ！　ったくぅ。うーん…アニキ、ソレ、初釣りですよね？

江：勿論だよ。しかもＮＨＣ以来（11月23日）の釣り。

里：…分かりました！　行ってきて下さいな、三島。それなら写真はバッチリお願いしますよ。羽生の時みたく少ないんじゃ困るので（笑）。

江：任せといてよ！　のんびり初釣りなんだから。いくらでも撮ってきてやるって！　なんなら猿でも撮ってこようか？　なんてったって今年の干支だからな！　正月らしくてええじゃないの～！

里：またすぐそうやって調子に乗る～！　ハイハイお任せしますよ…。そのかわりキッチリ5ページ埋めて下さいよっ！「のんびり初釣り」をテーマに、どうページを埋めるのか見モノですな！

江：簡単だよ。「字を大きく」すりゃいいんだろ？

里：それは最終手段です！

江：だってクレーム多いんだからいいじゃない？小さすぎるってさ。

里：だからって今月だけ字が大きかったら、思いっきり手抜きだってバレちゃうじゃないですかっ！

江：じゃ、写真たっぷりで！

里：あのねぇアニキ、僕が言ってるのは、選べないからたくさん撮ってきてくれって事なんス！　誰もアニキの釣りアルバムなんて期待してません！

江：は～い。

故障？

里：三島、どうでした？

江：渋かったけど楽しめたよ。

里：そうですか、そりゃよかった。同じ渋いなら野の方がいいですもんね。

江：ところで里ちんさぁ、ゴメン…デジカメ調子悪かったみたいでさ、うまく撮れなかったんだよ…。

里：マジですかぁ？

江：うん、マジ。でもホラ、去年の正月に三島行った時の写真があるからさ。しかも岡田君も写ってるし。

里：…。

江：あ、あとさ（汗）、バッチリ猿も写ってるぜ～！でもちょーっと小さく写っちゃってるからさ、「今年の干支（江成撮影）…どれが猿だかわかんねえよっ!!　by里ちん」なんてキャプションで笑いをとるってのはどうよ？

里：…。そのかわり、この顛末はキチンと書かせていただきますからね！　キャプションも「昨年の正月に撮影」って書きます（笑）。なんてったってウソはいけないんですからね。ねぇ、アニキ！？

江：お？　おう！　勿論だよ。

運命の日

里：アニキっ！　カメラ故障じゃなくて忘れてたんじゃないっすか～！！

江：ひぇ～！　誰から聞いたの～？

里：岡田さんスよ！　全くもう！

江：くぅ～！　それなら、「皆さんウソはバレますので気を付けましょう！」っていうオチはどうだ？

里：面白くないっ！

江：…と、ところでさぁ…

里：こ、今度は何スかぁ？

江：パソコン、去年一回初期化してたよ…。

里：それが何か？　あっ！　まさか…去年の三島の写真、ＣＤ-Ｒとかに落としてなかったんスかっ？

江：正解♡

里：♡ぢゃないっ！　フルチューンなんスよね？アニキのマック！　ＤＶＤだって焼けるって自慢してたじゃないですか～！

江：うん♡　でもまだ一度もＤＶＤ焼いたことなかったりする（笑）。

里：…面白すぎ（怒）。

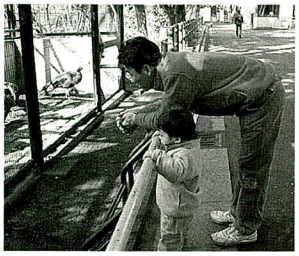
江：ガハハ。スペックオタっていう感じ？

里：ていうか、バカすぎ（泣）…。ところで、原稿どうしてくれるんじゃい（怒怒怒）。

江：まあそう怒るなよ～。とりあえず家族の写真送っとくから、「家庭崩壊はしてません！」ってアピールしといて♡　ボイスのコーナーに、「江成さんち、ホントにヤバいんですか」なんて載ってたじゃない。

里：！！！（怒怒怒怒怒怒）

江成家、（まだ）家族円満の図。



まだ大丈夫みたいです♡
by里ちん

最近よくお叱りのメールをいただく。
当初僕が予想していたのは、「何が“えな理論”だ！ボケ」とか、「実績もないくせに能書きをこきやがって」というものだった。もちろんそういうメールもいただくことはいただくのだが、圧倒的に多いのは連載の内容ではなくホームページの内容に関するものである。連載では考えられないような毒舌（？）ぶりを披露している僕なので、当然と言えば当然のことなのかもしれない。読者の皆さんの多くは、僕のホームページを見た事もない人が大半だと思うので、だからあまり関係ないのかもしれない。しかし先日こんなメールをいただいた。
「2月号の対談の中で、岡田さんと江成さんのこの業界へのスタンス云々とありましたが、一体なんの事ですか？」
「ホームページを見ましたが、何様のつもりですか？」
「釣りが人生の大義というのは大袈裟な気がします。数ある遊びの中のひとつではないのでしょうか。大義という言葉は、人生の中のもっと大切なものに使うべき言葉ではないでしょうか？」
いずれもごく最近のもので、それぞれ別の方からのメールである。どうやらここらで、一度誌面にも書いておかなければならない事があるようだ。三島も遊んじゃったことだし、次ページからは、そんなことを書いてみたい。　by江成

草の根運動。

友人に言わせると、僕はあちらこちらでへら鮒釣りの将来を憂いているらしいのだが、僕は常日頃からはそんなに意識してるつもりはなかった。釣りをしている時は、そりゃもう夢中でウキしか見ていないわけで。でも、友人の忠告やいただいたメールで少々考えさせられた。

皆さんご承知の通り、僕には何の実績もないし、権力もない。「何様?」と聞かれたら、「タダのいち釣り人です」と答えるしかない。しかしそうは言っても、一般の読者の皆さんとはやはりちょっとだけ違う面も持っている。それは言うまでもなく、連載を持っているということだ。だからといって、僕自身に業界への影響力があるなんてこれっぽっちも思ってはいない。何人の方が僕の記事を読んでくれているかは分からないし、読んだところでどれだけ納得してくれるか、また同意してくれるかどうかも分からないわけだから。にもかかわらず、ときおり業界を憂うような僕の発言がハナにつく、と。きっとそういうことなんだろうと思う。ここでハッキリさせておきたいのは、僕の発言で「変える」とか「変わる」なんて思っているわけではない、ということ。ではなぜ、業界に対する発言を繰り返すのか。

それは、発言する場を与えられた者の責任というか義務感からだ。発言をする以上、自分のスタンスを明確にする必要はあると感じている。また、黙っていられず思ったことを何でも口にしてしまうのは「僕個人」の性格。後先考えずに、言いたい事は言わないと気が済まないんですね。いつも痛い目を見ています(笑)。

「僕個人」にとって切実な問題は、「僕が老いた時、果たしてへら鮒釣りというものはあるのだろうか?」というもの。近所の釣り場がなくなってきているという事実を受けてのことだ。このままでは僕の老後の楽しみがなくなってしまう。

へら人口が減っているのか増えているのかはよく分からないが、釣り場が減少しているのは間違いない。力のない所が淘汰されていくのは仕方のないことだが、もしもへら人口がもっと多ければ状況は違ったのではないかと感じる。ここで「僕に何か出来る事はないだろうか?」という気持ちになってくるのは自然ではないだろうか。

一番簡単なのは、へら鮒釣りの楽しさをまだこの釣りを知らない誰かに教えてあげる事だ。何も難しい事を考えなくても、それぞれが一人ずつ新規参入者を連れてくるだけで、人口は倍になる。別に連載を持っていなくても、有名人でなくても誰にでも出来るシンプルな方法である。こういう話は以前、僕が尊敬してやまない田辺哲男氏も語っていたように記憶しているが、僕の基本スタンスもまさにコレ。プロ化に賛成する話もとりあげたことがあるが、結果として人口拡大に繋がる可能性を信じてのこと。いろいろ書いたが、結局はソコである。

先の事は誰にも分からない。僕の近所の釣り場も今以上には減っていないかもしれないし、何より僕自身が釣りをしていない可能性だってある。ある友人はこの点を突いて笑い、世の中にはもっと色んな遊びがあると諭す。確かにそうかもしれない。けれども「今」の僕は、へら鮒釣りを一生やっていきたい気分なのだ。深刻になって何が悪いというのか。

「趣味の世界は自己満足の世界。他人に何と言われようと関係ない」と、その友人は言う。全くその通りだ。自分が楽しめればそれで良いのだ。そんな友人はここでも僕を笑う。余計な心配までする必要がどこにあるのか、と。つまり「へら界の将来など関係ないじゃないか」ということだが、それは少し違うと僕は思う。へら鮒釣りは一人でも出来る遊びだが、そういう環境を作ってくれた先人達がいたからこそ、現在がある。そういう意味では、へら鮒釣りは自分一人で出来るものではないのだ。ならば、後に続く人達のためにやらなければならない事があるのではないか。短期間でもこの釣りにのめり込み、楽しさを味わった者ならば、この釣りに対する恩返しを忘れてはならないのではないか。

こんな優等生的発言では納得しない友人に、僕はこう言った。恩返しというのは建て前であり、結局は自分のためになるのだと。「情は(他)人のためならず」…自分が楽しむためなのだ。また、自己満足の世界であるならば、僕がどう考えどう行動しようとも全くの自由だし、他の世界を知らないまま死んだとしても何の悔いもない。「世界は広い」と僕に諭したその友人の知る世界とて、彼が自己満足出来る広さにすぎない。勿論こんな話で納得するかどうかも、当然、彼の自由なのである。

人生の大義?

冒頭のメール以外にも、Bさんという方よりこんなメールをいただいた。

「江成さんは羨ましいです。毎日を自信を持って生きられるから。自分には生き甲斐と呼べるようなモノは何一つありません。どうかそういう人もいるという事を忘れないで下さい。魚釣りはとても好きで時間が経つのも忘れる程ですが、江成さんのように有名人でもなければ、全国大会で表彰台に上がれる程の腕もありません。毎日仕事に追われ、人生について深く考える時間もありません。こんな自分にとって、江成さんの文章にはかなりショックを受けました。自分は生きる意味がないダメ人間じゃないかと考えてしまいました。明日からどう生きていけばいいか教えて欲しいものです」

これは僕のホームページの掲示板に寄せられたCさんという大学生からの書き込みに対し、僕がつけた返事を読んでのBさんの感想文だ。実は今回紹介した中でも、一番グサッときたメールである。このメールには電話番号まで書いてあり、実名(多分)だったので驚かされた。社会人のようだが、いくつ位の人なんだろう…。とにかく相当に腹がたったようだ。Bさんに火をつけてしまった僕の「返事」を紹介したいが、ページ数の都合上、ここで全文を紹介することは出来ない。そこでかなり強引に要約しておくと、

「人生には大義があった方がいいですよ」

という話だった。しかし、

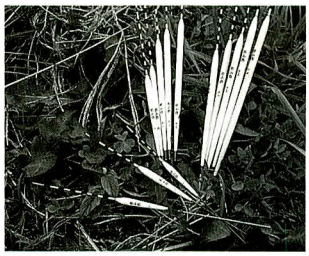
「人生の大義なんて、実は幻でしかない」

とも書いた。文中、僕は「人生の大義」という言葉を使ったが、Bさんのように「生き甲斐」と置き換えてもとりあえず問題はない。大袈裟だったとは僕も感じる。このテの話は、以前にも連載で軽く触れた事があった。

「人は生きる理由を求める動物であり、日々追い求めてもなかなか見つからないが、現代ではそんな人々を慰めるための娯楽や快楽はいくらでも目の前に転がっている。しかし、目先の逃避に走る代償は金銭的にも体力的にも精神的にも高くつくのではないだろうか」

競技派からのんびり派まで、すべての釣り人に使って欲しい…

へら浮子 杉山作



浅ダナスタイル
【パートⅠ・パートⅡ・ワイド・ムク】
(各1本4,500円)
フリースタイル
深宙スタイル
(各1本5,000円)

取り扱い店〈五十音順〉
埼玉・越谷 かわせみ(☎048・969・5067)　茨城・下妻 こやの釣具(☎0296・44・1619)　東京・渋谷 サンスイ川釣り館(☎03・3499・5025)
埼玉・入間 三水堂つり具店(☎042・964・2093)　栃木・益子 フィッシングハウスほそや(☎0285・72・2215)　神奈川・川崎 鮒仙人(☎044・287・7470)
東京・吉祥寺 丸勝(☎0422・22・8923)　東京・青梅 吉川釣具店(☎0428・22・2467)

ちょっとアレンジしてしまったが、大筋ではこんな感じだった。ホームページを見ていない読者の方なら、僕の人生観というものについての記述はこの文章で終わっている事になる。が、実はこの先の話がある。ホームページでもつい最近公開したばかりのその文章こそ、今さっき「超・要約」した、Cさんの書き込みに対する僕の返事だ。Bさんは、その文章を読んでいる筈なのだが、少し誤解をしているようだ。それともうひとつ、僕は神様ではない。電話をするわけにはいかないが、誌面で返答させていただくことにする。他の皆さんも読んでみて欲しい。

Bさんへの手紙。

〈大義と生き甲斐と逃避〉

メール拝見しました。Bさんの気に障った例の文章ですが、確かに誤解を招きやすかったかと思います。しかしながら文章後半で僕は、「ヒト」という種の哀れさも書いたつもりです。つまり人生に意味や理由を求める愚かな生き物という事ですね。Cさんへの返事にも書いたように、生き物であれば子孫を残すことが生きる意味であり、それ以外の意味なんかないんです。では、子供を作らない人間には生きる価値がないという事になってしまってもいいのでしょうか。今の社会の仕組みの中では、子供を作り続ける事は肉体的に可能であったとしても経済的に難しそうです。僕は二人目でさえ考えてしまいます。また、子供が出来ないカップルやパートナーのいない人もいます。もしそういう人達に生きる意味がないとしたら、大問題になってきますね。

人間は考える動物です。発達してしまった脳は、人生に意味を求めます。しかし今書いたように本当は意味なんかありません。今まで僕は「大義（人生の意味）」と「逃避」を分けて話してきましたが、人生に意味なんかない以上、実は大義も壮大な逃避の一つという事になってきます。どうしても生きる意味や理由が欲しい人を納得させるためのウソに逃げるって事ですね。そんなものなんですから、「自分にはないからダメ人間だ」なんて思う必要なんて全くないんです。

もしそんなものでも欲しいと思うなら、スケールの大小は関係ありませんが、時間的な事を言えばなるべく「長期」的な計画というか目標というか、そういうものを探せるといいですね。例えば、憧れの竿を買うためにコツコツと貯金するとします。途中でくじけそうになっても、ゴールが近付いてくると嬉しいじゃないですか。毎日楽しめますよね。それに対し、その日その日で楽しい事を見つけようとするのは、簡単そうでいて、実は結構しんどい事なんじゃないかと思うんです。

ところで、「大義」も「逃避」も同一線上に並んでいるという話をしましたが、「竿貯金が大義と呼べるのか？」と感じている事と思います。所詮幻であり自己満足でしかないものなので、どんなに陳腐な大義だって構わないと僕は思うのですが、このケースでは「大義」よりは「生き甲斐」という言葉の方がまだ似合いそうです。ここで「生き甲斐」について考えてみます。「生き甲斐」とは「生きる喜び」、すなわち「毎日の生活の中での喜び」ということにもなります。「喜び」は、逃避により近い「快楽」を表す言葉です。その本人が「喜び」や「やりがい」を感じさえすればいいのですから、自己満足という部分をストレートに表現している意味では「大義」よりはるかにいい感じです。Bさんは「生き甲斐がない」と書いていますが、大義と生き甲斐を分けて考えてみたらどうでしょうか？　何かありませんか？「生きる理由」ではなく「生きる喜び（エネルギー）」ってことは、ゴールを設定せずとも歩き出して構わないと捉える事も出来ます。だいたい人の寿命はわかりません。つい先日も友人が亡くなったばかりです。バイク事故でした…。明日は何が起こるか全くわからないのです。

ここまで読んでもし納得していただいたとしても、やはり「生き甲斐」ではなく「大義」と呼べるものが欲しいと思う人は多いかもしれません。僕はそうです。「自分だけは特別な存在」だとすれば、意味も理由も幻やウソではなく、ちゃんと存在する事になってきます。人は皆自分がかわいいですから、別に構わないんじゃないかと思いますが、「自分だけは特別な存在」ということがすでに幻である可能性を忘れてしまったら、ただの馬鹿です。

Bさんは「人生を深く考える時間もない」との事ですが、それでいいんじゃないでしょうか。もともとないものを考えるからややこしいのであって、余計な事を考えないで済むならその方がいいんじゃないかと。僕の親父がよく言っていた言葉に、「人間、頭（心）が忙しくなるとロクな事がない。体を忙しくさせておけば頭はヒマになる」というのがあります。どこまで考えて喋っていたのか、親父のオリジナルなのかどうかは知りませんが、なかなか渋い言葉だと思います（一生それで通せるかといえば難しいかもしれませんが）。もしこれが奴隷制度があった時代の言葉なら、とても怖い話になってきますが、現代は一部の地域を除き、「ヒト」ではなく「人」により近い生き方が出来る時代です。「人」として生きたいというなら考え抜くしかないと思いますが、Bさんの場合は時間がないと。しかしそれは、実は贅沢な悩みだということにも気付いた方がよいでしょう。動物としてではなく、人間として生きる事を自ら選べたのですから。

〈生かされている、という視点〉

「自分は特別な存在だとは思わない。けれども子供を作る以外に本当は生きる意味がないというのは辛すぎる」と感じる人もいると思います。

男性に多いかもしれません。僕もこのタイプです。「男にはロマンが必要」という言葉がありますが、かなり近い話だと思います。では、女性にはロマンは必要ないのでしょうか？　そんな事はないと思いますが、多くの女性の場合は出産という大イベントがあり、まずはヒトとして生きる意味を実感できるんですね。男性がこのイベントに全く関わらないわけではありませんが、どうしたって女性の占めるウェイトのほうが大きいのは事実でしょう。出産後は育児に追われ、くだらない事を考える暇はありません。やがて育児から解放され、人として生きたいと思った時には時間が経ち過ぎているというパターンだと思います。それ以外にも様々な制約があるとは思いますが、時間についてはその人のやる気次第だと思います。その先何年残っているかは誰にもわからないわけですから。もし女性が自分の人生をあきらめやすく、ロマンを求めない傾向が強いのだとしたら、やはり出産が鍵になってくるのだろうと思います。

それは、自分の肉体から分離した新しい命は、自分の分身だという意識があることです。「自分の分身に託す」という裏技によって、実はあきらめるわけでもなく、かつ自分探しの旅から逃げる事が出来るのです。父親にとっても子供は分身の筈なのですが、痛みを伴わないイベントのせいか、母親ほど自然に世代交代を受け入れられないのかもしれません。

…と、ここまで結局子供を作るという意味しか書けないでいるわけですが、「ロマン」や「大義」でなければ、生きる意味は実はいくらでもあるんです。

それは、「Bさんを必要としている人達がいる」という事です。その人達は、家族だったり友人だったりします。職場の同僚かもしれません（仕事の話というと、「歯車」だとか「代わりはいくらでもいる」っていうマイナスなイメージだけで捉えられちゃうと困ります）。

これでもBさんを納得させる事は難しそうですが、「生きる」というより「誰かに生かされている」という見方もあるんじゃないでしょうか？という提案です。

僕はそういう視点に気付いて以降、対人関係において「下手な事は出来ないな」と思うようになりました（日頃気をつけているかどうかは別として）。必要とされなくなったら困ると思ったからです。では、どうすれば必要とされるのかという事も考えました。よくいわれる「いい人」と評価されればそれでいいのか、と。ここで僕は気付きました。他人からの評価は、生きているうちは一定ではありません。死んではじめて評価が定まるんです。死ぬまでに何をやるのかっていう事ですね。この先何をやるかは、自分にも誰にもわかりません。だから「生きる」んじゃないかと。自分の価値は、最後まで自分ではわからないんです。

「生きる意味を自分では知る事ことが出来ない」からといって投げやりになるのも、「死んだ後の事なんか知らねえよ」といって好き勝手に振る舞うのも簡単ですが、自分ひとりで生きているわけではないことを忘れてはならないと思います。あなたが誰かを必要とするように、あなたの事を必要としている人が何処かにきっといます。

釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～ 75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

・仕上がりは黒一色です
・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

1.ぐりへら鮒会
2.ぐりへら鮒会
3.ぐりへら鮒会

・番付をインターネットで公開できます（無料）

お問い合わせご注文はお早めに！

取扱店：柴　舟　03-3613-2727

ウキや小物の銘入れに

転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～
２回目以降同じものをご注文の場合は3,500円～

・8書体、8色を御用意しています
・角印も作れます

取扱店：
柴舟（東京都江戸川区）
03-3613-2727
佐伯釣具店（神奈川県川崎市）
044-911-3722
SANSUI川づり館（東京都渋谷区）
03-3499-5025
フィッシング中原（神奈川県川崎市）
044-711-8266
鮒仙人（神奈川県川崎市）
044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店
または下記HPまでどうぞ

office27
あとりえぐり

http://www.office27.com
E-mail:info@office27.com

好きなことを仕事にするということ。

三島湖で、岡田君に同行してきたプロゴルファーA氏と出会った。納竿間際、僕はA氏と並び色々なお話を聞かせていただいた。

「岡田 清」の強さの秘密は、ゴルファーという立場から見ても興味津々であるという。勝負の世界に身を置く氏にとっては、ジャンルに関係なく一流のアスリートに興味があるのだろう。そういえば岡田君が連れてくるお友達には、各方面の一流の方が多い。一流は一流を知るといったところか。

へら釣りはプロ化に向けて準備が始まったばかり。賞金で生活していかなければならないA氏のいる世界とは、厳しさがまるで違う筈だ。しかし、氏いわく、「岡田 清さんクラスの強さ（勝ちっぷり）は、ゴルフでもそうそう見られるものではありません」そうで、「状況が少々変わったところで、どうという事はないでしょう」とのことだった。

僕は好きな事を仕事にしてしまったA氏に、「楽しさ」はどう変わったか聞いてみた。すると「半減してしまいました」という返事が返ってきた。さらに氏は「選択が間違っていたのか、そうでなかったのかは今も分かりません」と付け加えた。「楽しさが半減したとはいえ、まだ半分の楽しさは残っている。普通の会社員に比べれば、幸せなことなのではないだろうか」という遠慮が、氏にそう言わせるのだろう。しかし、僕は少し寂しい気分になった。A氏のように、「好きな道で食う」という夢が叶う人はごく稀である。もちろん、「だからこそ不満を言うな」などというつもりは全くない。そうではなく、「稀」だからこそ僕達一般人には想像もつかない葛藤がある筈なのだ。氏の言葉は、夢を見たい一般人にとって、現実に引き戻される強烈な言葉だった。

A氏の言葉を聞いて、僕は「当然だよな」とも思っていた。想像もつかない筈だったが、実は想像していたことになる。いつ想像したのだろう…それは想像ではなく、「用意された答え」であった。それは夢に向かって進まんとする者をいさめるための呪文としてであり、夢をあきらめざるを得ない者が納得するためのおまじないとしてである。夢を叶えた人の口から語られた「用意された答え」は、強烈な説得力を持っていた。

数日後、僕はこの話を里ちんにした。将来を嘱望されたエリートコース（？）を捨て、好きなへら鮒釣りの世界に飛び込んでしまった里ちん。世間的には「大バカ」と言われるのだろうが、実は皆、羨ましいという気持ちも持っている筈だ。それを素直に口に出せないのは、その他大勢の歯車が99.9%を占めてはじめて成り立つ社会の空気のせいだろう。逆に言えば、夢に向かって一線を超えてしまう者が多過ぎれば、この社会は成立しなくなってしまうのだ。一般大衆はこうして知らず知らずにマインドコントロールを受けている。映画「マトリックス」は、笑い話ではないのだ。

里ちんはこう答えた。「今の仕事は仕事だと思ってないですね。遊びの延長っス」。この男、本物のバカだった。最高である。「そうはいっても仕事なんだから、嫌な事だってあるだろうよ」と聞いたら、「そういう時だけお仕事だと割り切ります」と答えた。

両者の言葉は、どちらもリアルな本音だろう。僕にはどちらがいいとも悪いとも言えない。なぜなら普通に生きていれば、実感する事の出来ない心情だからだ。ただ、バカを自認する僕としては、里ちんの言葉の方が好きだ。「夢」があると思うから…。

by江成

「エンジョイフィッシングレポート」というタイトルから、楽しい釣行記を想像したみなさんは、すっかり狐につままれたお気持ちでしょう。アニキに代わり、里がお詫び申し上げます（涙）。

かなり哲学的とも言える内容であるが、里は、こういうことを真面目に考えているアニキを、好きだなぁなんて思ってしまったりもするのだ。

何が何だかわからなかった方には、「里は本物のバカである」という結論にて、ご容赦願いたい（!?）。

…というわけ（？）で、いったい今月号はなんだったのか？という疑問はさておき、いよいよ次号よりトーナメント本格参戦編へと突入する予定だ。この企画のテーマでもある、復活への具体的なドラマが刻まれていくのだ。本当の戦いはここから始まるのである。（江成のことだから、一回の試合で何カ月分もの原稿を送りつけてきそうだが…）

さて、記念すべき第一回目の試合は、…何にしましょう…。特別チビシ～やつがいいかなぁ～（グフフ）。試合後の江成の口から、いったいどんな言葉が飛び出すのか？　御期待下さい！

by 里ちん

平成16年3月1日発行（毎月1回1日発行）　第39巻 第3号
昭和41年5月4日第三種郵便物認可

へら鮒釣りの楽しさを追究し続ける…

へら鮒

Monthly fishing magazine herabuna

No.459
2004 Mar 3

特別企画

動かないウキに、諦めていませんか…？

伊藤洋一的超厳寒期突破法

いつまでもへら鮒釣りを楽しめるように、
俺達が出来ること。

特集Ⅱ

CROSS GENERATION TALK

石井旭舟×杉山達也

特集

たくさん釣りたい！ しかも、自然の中で…

真冬を楽しむ よくばり釣り場 PART Ⅱ

野守の池　鯨ヶ池　門池　早霧湖　七井戸のセキ　小貝川吉野

昭和41年5月4日第3種郵便物認可
第39巻第3号（毎月1回1日発行）
平成16年3月1日発行

Ⅱはダレない。

経時変化しにくく、作りたての状態が長続き。

Ⅱは重い。

「感嘆」より重く、わらびウドンよりやや軽い仕上がり。

Ⅱは黄色い。

視認性が高い黄色で、へら鮒へのアピールが抜群。

冬のしわせに大活躍
インスタントウドン!!の

感嘆Ⅱ（ツー）

定価 一〇〇〇円 本体九五二円

つれるエサづくり一筋
マルキュー
http://www.marukyu.com/

本社・桶川工場 埼玉県桶川市赤堀2－4 〒363-8509
TEL：(048) 728－0909(代) FAX：(048) 728－3909
大阪支店 大阪府寝屋川市楠根南町12-14 〒572-0811
TEL：(072) 824－0909(代) FAX：(072) 825－0909
四国営業所 香川県坂出市西大浜北3-4-33 〒762-0053
TEL：(0877) 44－0909(代) FAX：(0877) 44－3909
九州営業所 佐賀県鳥栖市姫方町341-8 〒841-0028
TEL：(0942) 82－0909(代) FAX：(0942) 83－0909

釣り場でエサに困ったら
iモード・ホームページ
http://www.marukyu.com/i

雑誌 07907－3

T1107907031003